

低学年実践例 主題名 「キリリンといたむ心」(正直、誠実)
 教材名 「クリのみ」(P. 20~P. 24)

道徳的価値について

- ・ 児童が積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすること、自分の過ちを認めて素直に改め、明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢をもつことが大切である。
- ・ 過ちや失敗は誰にでも起こるものであり、それをうそやごまかしによって回避することにより、信頼を失ったり、後悔から自分自身を強く責めたりしてしまうことになる。

児童について

- ・ 自分自身の言動について、他者から叱られたり笑われたりすることから逃れようとする気持ちが働いてしまう。
- ・ 自己保身的な考えから、ついうそを言ったりごまかしをしたりして、暗い心で生活を送ってしまうことがある。

教材について

- ・ 友達からだまし取ったクリの実をもらって喜ぶヨシ子を見て、椋少年の心がキリリンと痛みだした理由を考えることで、うそやごまかしをないで正直に生活することの大切さに気付かせることができる。

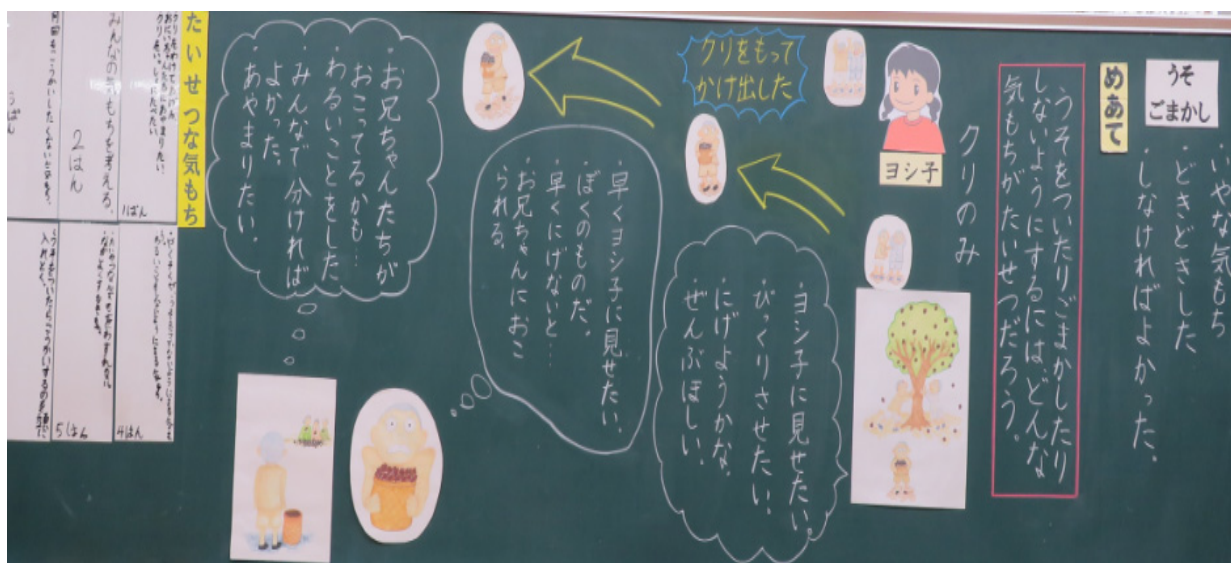
ねらい

うそをついたりごまかしたりせずに生活することの大切さに気づき、素直にのびのびと生活しようとする態度を育てる。

指導にあたって

- ・ 朝の読書の時間に始良市道徳教材集「生きるってすばらしい」のコラムを活用して椋鳩十先生について紹介する場をつくる。
- ・ 本時では、クリの実をヨシ子に見せて喜ばせたいという椋少年の気持ちから、クリの実を独り占めしてしまう椋少年の心情や、うそやごまかしにより、椋少年の心が痛み出した理由を共感的に考えることを通して、うそやごまかしをしないで、正直に生活することの大切さに気付かせたい。

板書



実践記録

	主な学習活動と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 うそをついたりごまかしたりした経験やその時の気持ちについて話し合い、本時のめあてを立てる。 ・いやな気持ちだった。 ・どきどきした。 うそをついたりごまかしたりしないようにするには、どんな気持ちが必要だろう。	○ うそやごまかしがいけないことは分かっているが、できないことがあることに気付かせ、そのときの気持ちを考えることで、課題意識をもたせる。
展開	2 教材を読んで、主人公の気持ちを中心に話し合う。 (1) クリの実を独り占めしようと考えている時の主人公の心情について話し合う。 ・ヨシ子に見せたいな。 ・お兄ちゃんたちにおこられるかも。 (2) 坂をかけおりにいるときのわたしの気持ちについて考える。 ・やってしまった。どうしよう。 ・やっぱりもどってあやまろう。 ・早くヨシ子に見せたい。 (3) わたしの心が痛み出したわけを考える。 ・やっぱり、しなければよかった。 ・今さら、本当のことは言えない。 ・正直にあやまりたいなと思ったことは、自分にもあるな。	○ 教材を読む前に、椋鳩十先生が小学校3年生の時に体験した話であることを確認する。 ○ うそやごまかしをしてしまう気持ちについて深く考えさせるために、坂をかけおりにいる主人公の気持ちに共感させる。 ○ うそやごまかしにより、自分自身が暗い気持ちになってしまうことを実感させるために、主人公の気持ちを自らの体験場面での内面と置き換えて考えさせる。 ○ ワークシートへの書き込みを基にグループで話し合いながら、「正直、誠実」にかかわる生き方についての考えを深めたり広げたりさせる。
終末	4 学習を通して生かしたいと思った見方や考え方についてまとめる。 5 教師の説話を聞く。	○ 正直な行いは、自分だけでなく周りの人の気持ちをもすがすがしくさせることにも気付かせる。 ○ 課題が連続発展していくように、余韻をもたせる。

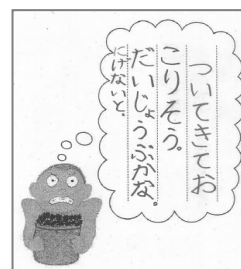
実践を振り返って

【成果】

- 朝の読書の時間に、椋鳩十先生について紹介したり、資料を読ませておいたりすることで教材の場面把握がスムーズにできた。
- 少年の心の迷いやごまかしてしまった気持ちを共感的に考えさせる際に、ワークシートを活用した。自分自身のことと重ね合わせながら考えることにつながった。

【課題】

- 場面ごとに順を追って話し合っていくだけでなく、中心となる場面に焦点をあてて、じっくりと考えさせる方法も効果的であると感じた。



【ワークシートの活用】



【グループでの対話活動の様子】